

2013年に入って日本国内で、マダニが媒介するウイルス感染症「重症熱性血小板減少症候群」(SFTS)の感染者が見つかりました。すでに感染症による死者が2例ほど出ています。野山へ出かけるシーズンには十分な注意が必要です。

### 発見と治療

SFTSウイルスを持ったマダニに咬まれることで感染します。ウイルスは昔から日本におり、これまで診断できなかつたと考えられています。咬まれても痛みや痒みはなく、すべての人が発症するわけではなく、人から人への感染もありません。感染すると、6～14日の潜伏期間を経て症状が出てきます。発熱や食欲低下、吐気、嘔吐、下痢、腹痛などの消化器症状があるほか、場合によっては頭痛、筋肉痛、意識障害、けいれん、昏睡などの神経症状、リンパ節腫脹、咳などの呼吸器症状、紫斑、下血などの出血症状が出ます。重症化すると、発熱、嘔吐、下痢などを繰り返し、血小板や白血球が著しく減少します。現在、SFTSウイルスに有効な薬はありませんが、点滴などの対症療法で症状が軽くなります。致死率は10～30%と言われています。風邪と見分けがつきにくいので、ダニに咬まれた後、発熱した時は皮膚科の受診が望まれます。



### 知っておきたいマダニの正体

マダニは、食品などに発生するコナダニや衣類や寝具に発生するヒョウダニなど、家庭内に生息するダニとは別のものです。日本全国の野山や草むらなどどこにでもおり、国内には47種類以上おり、春から秋にかけて活発に活動する。体長3～4mmで、森林や草地などの屋外のほか、市街地でも見られます。病気を媒介するダニは全体の1%に満たないと言われ、植物の葉っぱの先などで、動物が通りかかるのを待ち伏せています。



### 野山へ入る時の注意点

1. 肌が露出しないような服(長袖長ズボン、足を完全に覆う靴)を利用する。
2. ダニが比較的つきにくいナイロン製の衣服にする。
3. 山野では草の上に直接座らない。
4. 肌が露出する部分には防虫スプレーを使用する。
5. 帰宅後はすぐに着替え、入浴してダニ寄生の有無を確認する。  
マダニは、体のやわらかい部位を探して咬むので、刺す前に体や衣類をはたき、ダニを落とす。
6. ウイルスを持っている場合もあるので、つぶさないように慎重に除去する。
7. 脱いだ衣類は放置せず、すぐに洗濯するか、ナイロン袋に入れて口を縛っておく。



8. もしダニに吸血されているのを発見したら、無理に取らない。頭部が体内に残り、化膿する恐れがあるので、できるだけ早く皮膚科を受診する。
9. 野山に入った人が数日以上高熱を出したら、医療機関を受診する。
10. 犬や猫のペットのも付着して吸血するので、散歩から帰ったら、ブラッシングなどしてマダニが寄生していないか確認する。ペット用ダニ予防薬などを使う。

(参考:くらし | RCC健康・医療)